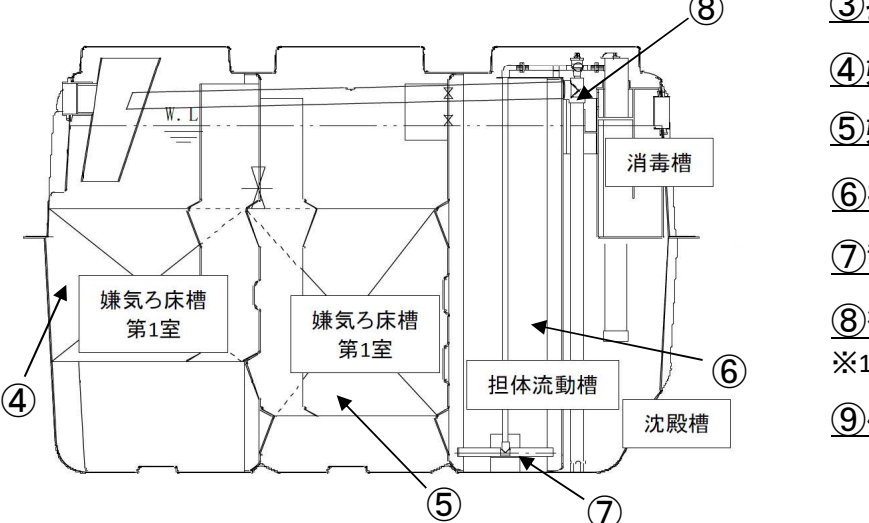
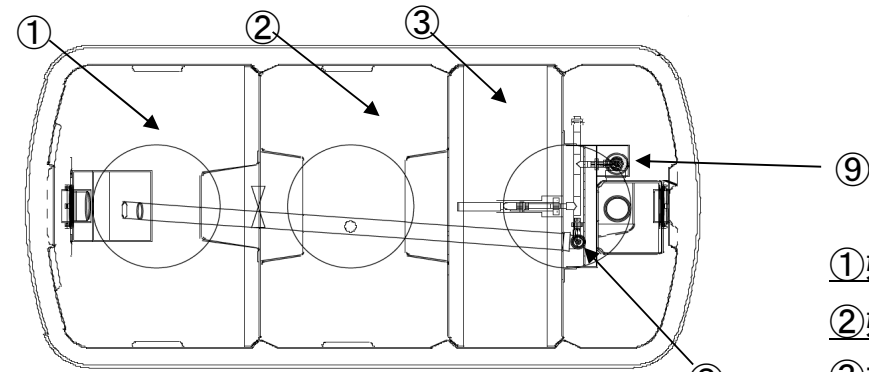
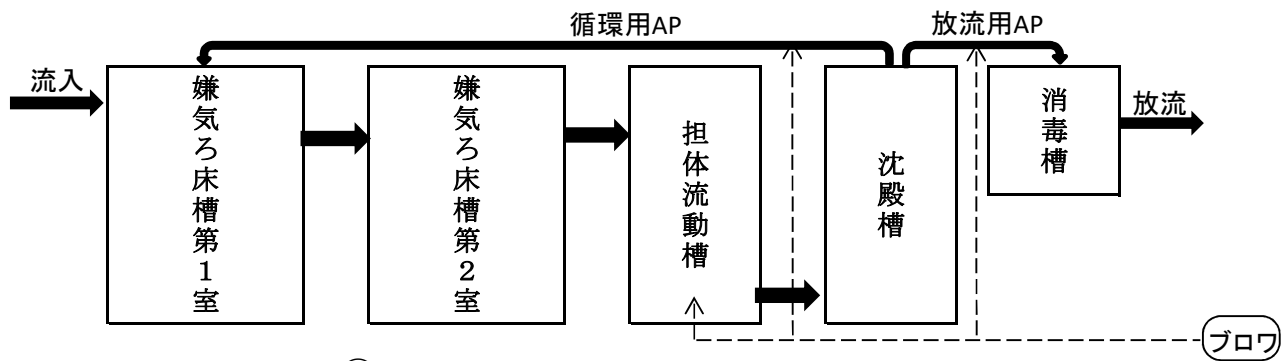


XC (株)ダイキアグシス
 OEM: なし
 共同開発: FDR 大栄産業(株)
 処理方式: 嫌気ろ床担体流動循環方式
 5・7・10人槽

窒素除去型

全浄協登録値		
BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値		
BOD	SS	T-N
10mg/L以下	10mg/L以下	10mg/L以下



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体流動槽
- ④嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ⑤嫌気ろ床槽第2室ろ材
- ⑥担体
- ⑦散気管
- ⑧循環用エアリフトポンプ
- ※10N型は取水部の構造が若干異なる
- ⑨処理水移送装置(エアリフトポンプ)

有効容量 (m³)		5人槽	7人槽	10人槽(10N型)
槽名	嫌気ろ床槽第1室	0.775	1.070	1.635
	嫌気ろ床槽第2室	0.739	1.049	1.519
	担体流動槽	0.457	0.627	0.936
	沈殿槽	0.352	0.420	0.729
	消毒槽	0.023	0.023	0.023
合計		2.346	3.189	4.842

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	嫌気ろ床槽第1室	嫌気ろ床槽第2室
	400	200

初期標準設定

XC

流量調整装置	調整せき可動Vノッチ	循環装置	循環バルブ	逆洗装置	逆洗バルブ
無	無	有	有	無	無

※ 流量調整として、処理水移送装置が設置されている。

循環装置	循環装置バルブ開度(%)		
	5人	7人	10人
有	58	70	82

人槽	ブロー風量 (ℓ/分)
	5
7	80
10	100

[実使用人員に対する循環水量の設定範囲]

実使用人員(人)・人槽	5人	7人	10人
移送水量(ℓ/分)	2.8~3.5	3.9~4.9	5.6~6.9

※ 循環水量は日平均汚水量の4~5倍が標準となります。

特徴

嫌気ろ床槽 第1室は下向流、第2室は上向流であり、それぞれ形状の異なるヘチマ様円筒状ろ材が充填されている。各々の充填率は、第1室は約48%、第2室は約60%程度となっている。なお、第1室から第2室への移流口は、各室の清掃孔内の水面下に設置されている。

担体流動槽 担体(骨格様円筒状担体φ60×L70mm)が充填されており、BOD除去と硝化反応が進行する。水面上には、担体流出を防止するための押さえ板が設置されている(脱着可能)。槽内水は、槽底部付近の移流口より沈殿槽へ移流する。

沈殿槽 槽内水が上向きに流れる過程で固液分離され、越流せきを介して集水管に移流する。集水管内に設置されたエアリフトポンプによって処理水が、消毒槽へ移流される。一方、沈殿槽に沈殿した固形物は担体流動槽からの流出水の一部とともに、エアリフトポンプによって嫌気ろ床槽第1室へ循環される。

作業時のポイント

保守点検

- ①各単位装置の水位の異常な上昇およびその形跡を点検し、異常がある場合は閉塞箇所を特定し、解消してください。
- ②担体流動槽は、槽内のばっ気攪拌状況、担体の流動状況等を点検し、必要に応じ、散気管を外し、洗浄作業を実施してください。
- ③循環用エアリフトポンプ(灰色のバルブ)は、開度を点検し、移送量の実測を行ってください。また、保守点検ごとにポンプ、配管を洗浄し、洗浄後は水量を再調整してください。
- ④放流用エアリフトポンプ(白色のバルブ)は、開度を点検し、揚水の状況を確認してください。また、保守点検ごとに配管等の洗浄を実施してください。

清掃

- ①汚泥の引き出しは嫌気ろ床槽第1室が全量、第2室は適正量とし、その他の単位装置は必要に応じて実施してください。